

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

小児外科について

北 山 保 博

(愛染橋病院 外科・小児外科部長)

今年の3月で、消化器外科・小児外科医である松尾吉庸副院長が愛染橋病院（以下当院）を退職され、それに伴い、成人外科疾患は、外来診療のみを行っており、手術など入院治療が必要な場合は、他の病院を紹介させていただいています。現在、当院では小児外科疾患を中心とした診療を行っています。成人外科疾患に対しては、皆様には大変ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

今回、小児外科はどのような診療科なのか紹介させていただきます。日本小児外科学会の専門医数は、福井県0人、鳥取県1人など、3人以下の都道府県は東北地方、山陰地方、九州に10か所であり、日本国内で、現在のところ600名程度と少なく、小児外科は、まだまだ認知度が低い診療科であると思われます。小児外科で対象となる患者様は、生まれたばかりの赤ちゃんから中学生までと広い年齢の子供たちでおもに外科治療が必要な患者様です。また、生まれる前の赤ちゃん（胎児）とその家族、さらには小児期に手術を行った患者様で、その後もフォローが必要な高校生や成人まで診療しています。小児外科で対象となる疾患は、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、停留精巣、肛門周囲膿瘍などの体表疾患、虫

垂炎などの腹部の疾患、鎖肛、ヒルシュスプルング病、食道閉鎖症、小腸閉鎖症などの先天性の疾患を対象としています。小児外科では、上記の対象疾患に対して手術や処置など外科的治療を行う診療科です。循環器疾患、脳神経疾患、整形外科疾患、耳鼻科疾患、眼科疾患、口腔外科疾患などは対象としていません。

当院の小児外科は、当院新生児科・小児科で治療し、外科的手術が必要な患者様のみを対象としているとお考えになる人も多いと思いますが、他病院よりの紹介患者様や、自ら当院に受診される患者様の手術も積極的に行っています。私たちは、子供の手術・処置に対しては、成長の妨げとならないような身体への負担が少ない手術・処置が必要と考えています。鼠径ヘルニア、虫垂炎の手術では、傷が小さく美容面に優れ、身体に優しい腹腔鏡手術を行っています。当院の年間手術数は100例から120例ですが、手術の6割前後は腹腔鏡手術を行っています。また、肛門周囲膿瘍は1歳までの男児で多い疾患で、以前は外来で局所麻酔下に切開排膿を行っていましたが、最近は漢方薬（排膿散及湯など）の効果を認め、当院では切開排膿をほとんど行わず、患者様が外来で大泣きすることがなくなりま



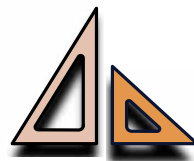
した。鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、停留精巣などの手術は、患者様および患者様のご家族に負担が少ない日帰り手術を積極的に行っています。子供の日帰り手術は、現在のところ大阪市内では当院のみで行っています。

当院は、総合周産期母子医療センターであるため、産科で外科治療が必要な病気の診断を受けた赤ちゃん(胎児)の治療にも、産科・小児科(新生児科)と連携し治療を行っています。また、当院ではNICUに入院している患者数も多く、500g以下の赤ちゃんの穿孔性腹膜炎の手術など積極的に行っています。当院の年間手術数は100例から120例で、そのうち新生児手術数は10例前後です。大阪大学小児外科教室の他施設において、新生児手術の割合は多いところで全手術数の5%程度ですが、当院では10%前後と高い割合になっており、産婦人科、小児科との連携がうまくいっていると思われます。

小児外科の手術処置は、全身麻酔が必要になることが多く、当院では、小児麻酔専門医が担当し、手術を受ける際のストレスを少なくする取り組みを以前より進めており、2017年5月30日付読売新聞夕刊「キーボード」欄でその取り組みが紹介されました。病棟からキャラクターカートに乗り、ニコニコしながらアンパンマンなどのキャラクターで飾り付けられた手術室に入り、好きなアニメを見ながら麻酔で眠り、目が覚めたら手術が終わっています。病院で行ったアンケートでもご家族の方々から手術のストレスがあまりなかったと回答をいただいております。私も、現在卒後28年目で小児外科医として25年が経ち、いろいろな小児外科病院を経験してきましたが、手術の前後で大泣きする患者様は当院では少なく、手術のストレスがないと感じています。

浪速区医師会の皆様には、日頃より大変お世話になっていますが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます

理事会報告



◎平成30年度5月定例理事会

日 時 平成30年5月25日(金)

午後8時～9時40分

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 大阪市がん診療ネットワーク協議会委員について <澤井会長>
標記委員の推薦依頼があった。今年度の当番は大阪市立総合医療センターである。この協議会委員については、市内医師会より参加を求めているとのことであった。委員について協議願いたい。

協議の結果、久保田副会長に決定した。

2. 第1回大阪中央地域産業保健センター運営協議会への出席者について

<澤井会長>

標記協議会の出席者を決めたい。日時等は次のとおり。

日時 7月10日(火) 午後2時～3時

場所 大阪中央労働基準監督署 6階会議室

協議の結果、木田理事に決定した。

3. 浪速区役所が行う「区民向け健康講座」への講師派遣依頼について標記講座への派遣依頼があった。

詳細は次のとおり。

健康の日「区民向け健康講座」(今回が初依頼)

【テーマ】

がん予防「今どきの最新がん治療・まだ間に合うがんの予防生活」

【目 的】

大阪市の死亡原因の約3割が「がん」

と1番多い中、浪速区においても同じ結果であるが、当区のがん検診の受診率は市内でも低く、がんに関する早期発見・早期治療の啓発は重要となっている。今回、講座によりがんに関心を持ってもらい、早期発見・早期治療、またがんの予防生活につなげていくことで健康寿命の延伸を目的とする。

【日 程】

平成30年8月29日〈水〉もしくは30日〈木〉午後2時～3時30分

※医師の都合のいいどちらかでOK

【場 所】

区役所7階 会議室

【報 酬】

医師年数による

協議の結果、病院より講師の推薦を依頼することとなった。

4. 本会委員会の整理について <澤井会長> 現在ある委員会の役割や担当を明確にし、整理したい。

資料に添って協議の結果、一部名称を変更することとなった。

5. その他
なし。

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について
(5月25日〈金〉) <澤井会長>
次第は次のとおり。
▷開会
▷会長挨拶
▷退任される郡市区等医師会長紹介
▷郡市区等医師会新会長紹介
▷連絡事項
(1) 大阪府在宅医療関連事業の件
(2) 向精神薬長期処方に関連する研修の件
(3) 特定健康診査個人票における質問事項の件

- (4) 府内市町村立学校に関するアンケート調査実施の件
(5) 日本外傷診療研究機構 JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and care)
コース 大阪府医師会枠確保の件
(6) 旧優生保護法に係る資料保全及び調査協力(依頼)の件
(7) 大阪大学における IRUD (未診断疾患イニシアチブ) 案内の件
(8) 6月度行事・会合日程の件
▷協議
▷閉会 (詳細 略)

2. 大阪府医師会連合会委員会について
(5月21日〈月〉) <澤井会長>
次第は次のとおり。
▷協議事項
(1) 平成30年度会議日程(変更)の件
▷連絡事項
(1) 平成30年度大阪府がん検診推進事業の実施の件
(2) 特定健康診査個人票における質問事項の件
(3) 平成29年度下半期大阪市ふれあいDOTS(医療機関)事業協力金配分の件
(4) その他
▷会議日程 (詳細 略)

3. 第311回府医臨時時代議員会について
(5月24日〈木〉) <澤井会長>
次第は次のとおり。
▷開会
▷仮議長推挙
▷会長挨拶
▷選挙管理委員会委員長挨拶・委員紹介
▷投開票立会人・開票管理人紹介
▷大阪府医師会代議員会議長及び副議長の選定
▷議事
第1号議案
次期就任大阪府医師会長(候補理事)

- 選任の件
第2号議案
同大阪府医師会副会長（候補理事）選任の件
第3号議案
同大阪府医師会理事選任の件
第4号議案
同大阪府医師会会長選定の件
第5号議案
同大阪府医師会副会長選定の件
第6号議案
同大阪府医師会監事選任の件
第7号議案
同大阪府医師会裁定委員選任の件
第8号議案
同日本医師会代議員選出の件
第9号議案
同日本医師会予備代議員選出の件
▷閉会
(詳細 略)

4. 日本在宅医学会第20回記念大会について
(4月29日<日>) <久保田副会長>
グランドプリンスホテル新高輪にて開催された。
テーマ「望まない延命治療をしないためのまちづくり～救急医療と在宅医療の有機的な連携のためにできること～」
ブルーカードシステムとAケアカードシステムについて発表をおこなった。
(詳細 略)

5. 第33会大阪市医師会連合会評議員会について
(5月21日<月>) <原田理事>
次第は次のとおり。
▷人権研修会
▷評議員会
(1) 開会
(2) 会長挨拶
(3) 評議
①平成28年度歳入歳出決算報告の件
②平成30年度事業計画に関する件

- ③平成30年度歳入歳出予算に関する件
(4) その他
(5) 閉会 (詳細 略)

6. 学術講演会について
(4月21日<土>) <富永理事>
講演内容は次のとおり。
演題 CKD（慢性腎臓病）マネジメント
～尿酸・血圧・脂質等に関して～
演者 独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター
腎臓内科 科長 岩谷 博次 先生
共催 帝人ファーマ(株)
参加人数 36名 (詳細 略)
7. 加藤勝信厚生労働大臣講演会について
(5月12日<土>) <山田理事>
帝国ホテル大阪にて開催された。「これからの社会保障と働き方改革」のタイトルで講演が行われ、大阪府下の各医師会から多数の参加があり、大盛況の講演会となった。
(詳細 略)

8. 医療問題研究委員会について
(5月9日<水>) <福永理事>
次第は次のとおり。
▷開会
▷意見交換 テーマ「今期2年間の委員会活動まとめ」
▷指定発言 「日本医師会・医師会将来ビジョン委員会答申
『医療の今日的課題に対して医師会員は何をすべきか』について」
▷まとめ
▷閉会 (詳細 略)

9. その他
なし。

次回理事会
平成30年6月22日<金> 午後8時～

5 月度 学術講演会報告

日 時 5 月 19 日〈土〉午後 2 時
演 題 プライマリケア医における咳嗽の
診断と治療～咳喘息を中心に～
講 師 公益財団法人田附興風会医学研究所
北野病院呼吸器センター
丸 毛 聡 先生
出席者数 24 名
共 催 杏林製薬株式会社
情報提供 気管支喘息治療剤
「フルティフォーム」について
担 当 富永良子

咳嗽はプライマリケアにおけるもっとも遭遇する患者の主訴であり、その診療は重要である。このような現状を鑑み、プライマリケアにおける咳嗽診療のレベルアップのために「咳嗽に関するガイドライン第 2 版」が 2012 年発刊された。

ここでは問診や身体所見を重視し特殊な検査を要さず咳喘息・アトピー咳嗽・副鼻腔気管支症候群(SBS)・胃食道逆流症(GERD)咳嗽・感染後咳嗽などの診断治療が行えるように工夫がされた。

しかしながら実地臨床ではガイドライン通りに診療が行うことが出来ない。そこでは複数疾患の合併・服薬アドヒアランス・精神的要因などの様々な側面からのアプローチを要する。複数疾患の合併では、特に喘息やアトピー咳嗽や SBS に GERD 咳嗽が合併することが多い。吸入薬は内服薬と違い服薬アドヒアランスおよび吸入手技の問題がある。吸入薬が効果なく喘息でないと判断する前に、アドヒアランス・手技の確認が必要である。そして安定した吸入療法のためには地域全体での吸入指導体制の確立が必要である。

また必要に応じ特殊検査を行うために専門病院へご紹介もご検討ください。呼気一酸化

窒素(FeNO)・気道抵抗・精密肺機能検査・胸部 CT・副鼻腔 CTなどを要することもあり、咳嗽が改善しない際は特殊検査を行うために、専門病院・総合病院への紹介を躊躇してはならない。時に胸部単純 X 線では分かりにくい肺癌が咳嗽の原因であることもある。

喘息を疑った際にガイドラインでは β 刺激薬で診断的治療を行い、吸入ステロイド(ICS)で維持治療を行うこととなっている。しかし実臨床では ICS/LABA 配合剤で診断的治療を行うのが現実的である。現在、フルティフォーム・レルベア・シムビコートがその主流であるが、これらの使い分けは意外とシンプルである。吸気流速や同調性を考慮し、各患者に適切なデバイスを選択することが肝要である。

7 月度学術講演会のお知らせ

7 月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時：平成 30 年 7 月 21 日〈土〉

午後 2 時～ 4 時

場所：一般社団法人浪速区医師会 会議室

演題：「人工関節における骨粗鬆症治療の重要性」

講師：社会医療法人弘道会 なにわ生野病院
人工関節センター長

岡島 良明 先生

本勉強会は、大阪府医師会生涯研修システムの対象となっておりますので、生涯教育チケットの持参をお願いいたします。

浪速区在宅医療・介護連携相談支援室 からのお知らせ

5月の相談件数は、4件でした。ケアマネジャーを紹介して欲しいとの依頼がありました。医療の方では、近隣の先生を教えて欲しい、かかりつけ医の依頼が2件でした。ケアマネジャー、近隣の専門医の先生は、リストを提示しました。かかりつけ医の件は、病院からの正式依頼待ちです。地域包括支援センターから、ケアマネジャーの空き状況をお知らせ頂いており役立っています。在宅医療、介護において何か困ったことや問い合わせ等ありましたらご連絡ください。よろしく申し上げます。

相談受理実績

■ 個別ケースに関する相談（H30.5月度）

① 医科	0件
② 歯科	0件
③ 薬局・薬剤師	0件
④ 病院 地域連携相談室	3件
⑤ 訪問看護	0件
⑥ 介護支援専門員	0件
⑦ 地域包括支援センター	1件
⑧ ⑥⑦以外の介護関係事業所	0件
⑨ 認知症初期集中支援チーム	0件
⑩ 他区在宅医療・介護連携支援室	0件
⑪ 区役所・保健福祉センター	0件
⑫ 区民	0件
⑬ その他（ ）	0件
合 計	4件

■ 相談内訳（重複有）

① 医 療	① 診療所・医師に関して	2件
	② 訪問診療できる医療機関に関して	2件
	③ 病院（入院・転院先等）に関して	0件
	④ 歯科に関して	0件
	⑤ 薬局・薬剤師に関して	0件
	⑥ 訪問看護に関して	1件
	⑦ 医療の手続きに関して	0件
	⑧ その他	0件
② 介 護	① ケアマネに関して	0件
	② 地域包括支援センターに関して	0件
	③ 介護事業所等に関して	1件
	④ 介護の手続きに関して	0件
	⑤ その他	0件
	③ 退院支援に関して	0件
	④ 看取りに関して	0件
	⑤ その他（内容： ）	0件
	合 計	6件

<お問合せ> 浪速区在宅医療・介護連携相談支援室
〒556-0022 大阪市浪速区桜川 4-11-16 アリタビル50B
TEL:070-1760-4964 FAX:06-6567-8058



浪速区医師会 活動の伝言板

平成30年7月の各業務の出務予定は次のとおりです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3歳児健康診査

●保健福祉センター

7月26日(木)午後1時40分～3時30分

小児科 川田 信哉

眼科 山尾 信吾

耳鼻科 中村 泰久

BCG接種

●保健福祉センター

7月19日(木) 午後2時～3時30分

本田 秀明・北村 栄作

急病診療所出務

●中央急病診療所

7月6日(金) 深夜22:00～30:00

篠原 嘉伸

●今里休日急病診療所

7月8日(日) 10:00～17:00

山田 郁子・川田 信哉



大阪府医師信用組合『いししん』は医師会員の専門金融機関です。
組合員にご加入いただき、当組合のサービス(預金・ローン・お振込み等)を是非ご利用ください。

いししんはドクターのクリニック経営をご融資でサポートいたします。

新規開業ローン	診療所ステップアップローン	診療所継承ローン
無担保型	有担保型	有担保型
限度額 5,000万円	限度額 3億円	限度額 2億円まで
期間 20年以内	期間 35年以内	期間 35年以内
保証料 不要	保証料 不要	保証料 不要

●クリニック開業に関する資金
●クリニックの移転や医業拡大に関する資金
●クリニック継承に関する資金
●上記資金使途の他行借入金のお借換え
下記「融資お問合せ専用番号」まで、お気軽にご相談下さい。

ローン金利についてはお問合わせください。

オートローン	教育ローン	住宅リフォームローン
有担保型	有担保型	有担保型
年1.60%	年2.475%	年1.075%
1,000万円	3,000万円	5,000万円
7年以内	20年以内	20年以内
保証料 不要	保証料 不要	保証料 不要

●大阪府医師自動車連盟の会員様は、表示金利より更に0.2%優遇いたします。
●個人名義で500万円以下のお申込みの場合は、原則 連帯保証人は不要です。

●表示金利は平成30年6月にお借りいただく場合の適用金利です。お申込時ではなく、実際にお借入れいただく日の金利が適用されます。●上記ローンは原則として、ご返済終了時 お借入れの年齢が満75歳(開業及び継承ローンは満80歳)を超える期間でのお申込みはお受けできません。●ローンには審査がございます。審査結果によってはご希望にそえない場合がございます。何卒ご了承ください。●上記ローン以外にもローン商品を揃えております。詳細については下記「融資お問合わせ専用番号」までお問い合わせください。担当者が訪問することも可能です。お気軽にご相談ください。

〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町19-14 (大阪府医師会保健連盟センター1階) 融資お問合わせ専用番号 ☎0120-947-604 (平日9:00～17:00/土日祝除く)
大阪府医師信用組合 (いししんのホームページ) <http://www.odcu.co.jp>



あとがき

山田 郁子

6月6日、大阪管区气象台から「近畿地方が梅雨入りしたとみられる」と発表がありました。平年の6月7日より1日早い梅雨入りです。梅雨について少し調べてみました。先生方をご存知のことばかりでしょうが、梅雨は、北海道を除く日本、中国の揚子江流域、朝鮮半島の南部に特有の現象で、漢字表記「梅雨」の語源としては、この時期は梅の実が熟す頃であることからという説や、この時期は湿度が高くカビが生えやすいことから「黴雨（ばいう）」と呼ばれ、これが同じ音の「梅雨」に転じたという説などがあります。恥ずかしい話ですが、実は、黴菌（ばいきん）の「黴」の字が、カビ（黴）と同漢字であると最近知りました。いずれにしろ、湿度の高い毎日、頭痛や腹部症状など、様々な症状が出現しやすい時期です。

巻頭言で愛染橋病院の北山先生から小児外科についてわかりやすく紹介していただきました。ローテート制度のない時代に研修医を過ごし、小児診療に関わった経験はほとんどありませんので、大変勉強になりました。大学病院に勤務していたとき、小児科に入院している小学生の患者さんの髄液検査の依頼があり、小児病棟に行きました。髄液検査は大人でも嫌な痛い辛い検査です。何度も部屋に行きますが、看護師さんがまだです、準備ができていませんと言う。最初は看護師さんの準備が遅いのかと思っていましたが、患者さんの「心の準備」ができていないので、待つて欲しいとのこと。結局2時間以上待ちました。大人では心の準備ができていないからなどの理由で検査できないことはありませんので、大人と子供の違いは体だけではないことを実感しました。子供にとって、手術を受ける際のストレスは想像以上だと思います。愛

染橋病院では手術の際のストレスを少なくする取り組みを行っておられるとのこと、本当に素晴らしいことです。

5月12日に加藤勝信厚生労働大臣講演会に参加させていただきました。日本の大臣のお話を直接お聞きする初めての機会でしたので、内容もですが、SPの方々がガードされたり、大臣の話し方など、医師会関係の講演会との違いを実感し、勉強になりました。

愛染橋病院が同じ浪速区であることに感謝しつつ、あとがきを終わらせていただきます。



目次	ページ
巻頭言	
小児外科について	北山 保博 1
理事会報告（5月開催）	2
5月度学術報告	富永 良子 5
7月度学術講演会のお知らせ	5
浪速区在宅医療・介護連携相談支援室からのお知らせ	6
浪速区医師会活動の伝言板	7
あとがき	8

【区医だより】

発行者 澤井貞子
編集者 中村泰久 山田郁子
印刷所 株式会社 サ ビ